

受賞者紹介

劇団「北芸」

代表 北山樵也さん



代表の北山樵也さん



芸術祭の開幕を飾った「ベニスの商人」

郷土芸術賞に輝く

◁下▷

舞台にかける情熱

ことしの釧路市芸術祭の開幕を飾って「ベニスの商人」を上演した。劇団創立十五周年記念「北芸」と改めた。公演はHB

観客に楽しんで
らう事を第一に

放送劇団との合同公演である、モリエールの「女学者」(三十七年)松川事件を題材とした「消えた人」(三十八年)原爆をテーマにした「ピカの陰

試みを重ねた。
◆ ◆ ◆
思いがけない、といった表情で受賞の報らせを受けた代表の北山さん。

「ベニスの商人」は「女学者」のいらいの入りでした。成功だったと思います。観客は面白い、楽しい芝居を求めているんだ、ということを感じました。

新劇は学問じゃない、カビくさい図書館に客を誘い込むようなものじゃない、観客に演劇を楽しんでもらうためには最大限の犠牲を払うべきだ」というのは北山さんの持論であり「北芸」の行き方でもある。

「ロイヤル・シェークスピア劇団のあるストラッドフォードは、イギリスの一地方都市なんです。日本でも地方からすぐれた劇団が育ってもよいのではないか」。

そのためには、観客に責任を持つ舞台を「女学者」から「ベニスの商人」まで貫いてきた姿勢だ。

公演である。本公演は五年ぶり、その長い沈黙を経ながらも、地元で初のシークスピア劇に全力を注ぎ得たのは、しかもその舞台に対する評価が高かったのは、同劇団の底力とも言える。

昭和三十一年、劇作家の佐々木武観が主宰した北方芸術座が解散後、そのメンバーによってスタートした「雲の会」が前身中江孝司さんを顧問に、安部好二、酒井正美、牧野子、富田美智子さんといった顔ぶれであ

る。三十四年、プロをやめてからは「(四十一年)」と「島」

から「(四十二年)」が代表的。最近の

二年間は小劇場上演で実験的な